

横芝の碑

(その六十六)

大総村両国新田と太子講の

昔を偲ぶ聖徳太子の碑

旧一二六号国道と於幾を結ぶ道路から両国新田に入り、約五十米進んだ十字路の右角には、子安様の祠や道祖神等の石像が立ち並んでいます。そして、その周辺には、寛延、正徳等の年号が刻まれた碑や石佛が寄添うような姿で集取されています。

その中に珍しい碑があるのに気がつきます。表面の中央には、聖徳太子、両側には元文〇〇、大総村両国新田と刻まれています。

両国新田は、昔於幾の人が荒地を拓き、元録の頃、始めて繩張りを実施して両国新田と称した、と言われていますが、この碑は両国新田が大総村から分離したことを判りと物語っている訳です。

若い衆の力比べに利用：

或古老の話によりますと、「子安様や道祖神は昔からここに建っていたのですが、大部分の碑や石像は他の場所から移されたものだと思います。両国新田は、従来から水田が多く、それだけに湿地帯も



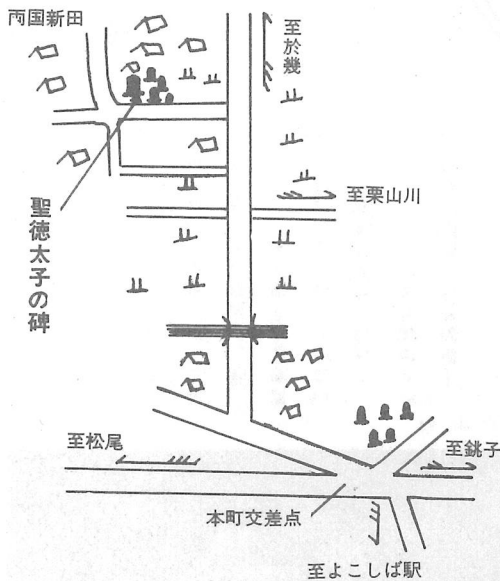
太子様は建設業者の本尊

聖徳太子は、我国で始めて法律

を定められ、また飛鳥文化発展の功労者でもあること等から、後世までも庶民の信望を集め、現世に到っては高額紙幣に肖像が用いられていることは御承知の通りであります。特に今でもその技法と規模に目を見張る、法隆寺や四天王寺を建立されたり、百濟(くんだり)や新羅(しらぎ)等から、建築や美術の職人を呼び寄せて工芸

衆の力比べの石に用いられたりしていたものだ」ということですが。

碑案内略図



の振興に努められた事蹟は、建設業者の信望から信仰に転じ、聖徳太子を本尊とする太子講が生れたものと思われまふ。しかし、世の変遷は、碑の太子様の前に集ることが難しくなつて、座敷に軸を掛けて本尊として祭り、その前で講を開くようになって来ますと、何時か碑の太子様との結びつきは薄れて、若い衆の力比べの石になり結果は此々に運ばれ、大総村両国新田の昔を偲んでいるのです。

其後、太子講は職工組合となり更に技術工組合から建設技能組合となつて今日を迎え、太子の掛軸を祭つたことも、既に昔語りになろうとしています。

○写真は、石像と肩を寄せ合うように建っている聖徳太子の碑で、表中央には聖徳太子と太子で刻まれ、右肩の部分には元文の年号だけが読みとれます。また、半毀の

石像の影には、大総村両国新田と刻まれています。

(本橋取材に当り、地元の菅沢利重、宇井兵吾、同清二、高宮環、桜井市平、本町の中村元一、鳥喰下の押尾好文、各皆さん方の御協力と御指導を頂きました。)

文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿

営業課に変わりました

山武水道企業団

今まで受付窓口になっていた業務課が、機構改革により、今月から営業課になりました。

水道についてのご相談、申込みは次の場所で行なっていますのでお気軽にご相談ください。

○営業課

東金市家徳字中桜田三六一の一

☎04755(2)0521

○北部営業所

松尾町蕪木字清見崎八三一の一

☎047986-4730

◎お詫び

三月発行の広報よこしば一六二号七面の「横芝の碑」の見出しで、二つの道標と、とあるのは、二つの道標と、の誤りでした。訂正してお詫び致します。